

[練馬区議会議員 無所属] 練馬育ちの39歳

# 井上

いのうえ  
ゆういちろう

# 勇一郎

INOUE YUICHIRO  
NERIMA

2期8年の経験・実績を活かし、  
全力で改革に取り組みます!!!

## 「選択」と「集中」による効率的な施策の推進

3月10日の練馬区議会本会議において、令和5年度の練馬区予算が可決成立しました。補正予算も加わり3055億6387万円(当初+補正)と過去最高の予算編成となりました。新型コロナウイルスからの経済回復の兆しが見えつつありますが、打ち消すように物価高騰等が大きく影響していることから、令和5年度の区財政の歳入としては引き続き予断を許さない状況が続くと思われま。歳出においては、社会保障経費がこの10年で倍増し、義務的経費は予算の5割以上を占め、区立施設の一斉更新や都市インフラの整備等、区特有の課題にも取り組む必要があるなかにおいて、緊張感ある財政状況が続いています。

この様な先行き不透明な中であっても、それを乗り越えて健全な財政運営に努め、将来にわたり持続可能な区政運営を行うために、「あれも、これも」というような古い政治から脱却し、今必要なものに選択と集中を図る「あれか、これか」という視点を持ち、更なる区民福祉の向上と、健全性ある財政運営が行われるよう今後も区議会で声を上げてまいります。

引き続き6つの改革・対策に取り組んでまいります!

財政  
改革

防災  
改革

医療  
改革

子育て  
改革

福祉  
改革

産業  
改革

向南幼稚園卒園 ▶ 練馬区立向山小学校卒業 ▶ 練馬区立開進第二中学校卒業 地元練馬育ちの39歳

大学卒業後、民間企業を経て小林興起元財務副大臣、木内孝胤衆議院議員の秘書を務め、平成23年練馬区議会議員選挙に初出馬するも3,023票獲得(3,023票52位)もあと38票届かず惜敗。選挙後、松野頼久元内閣官房副長官の秘書として国会事務所に復職。新党の立ち上げに携わり、その後党国会対策委員会職員、党幹事長秘書、党代表秘書、公設秘書及び党秘書会事務局長等を務める。その後今村洋史衆議院議員の公設第一秘書を最後に区議会議員立候補準備のため計7年務めた衆議院議員秘書を退職。平成27年4月、練馬区議会議員選挙に3度目(補選含む)の挑戦で(3,349票35位)初当選。平成31年4月、練馬区議会議員選挙2期目の当選(5,179票12位)。2期計8年間の任期を全うする。

# 未来にツケを残さない政治の実現。



## 少子高齢化・人口減少の課題にどう向き合うか。 行政サービスを持続可能なものに――

いま日本では少子高齢化・人口減少社会に直面しています。少子化については未婚化、晩婚化及び、結婚している女性の出生率の低下などによる要因と考えられます。その背景には、若年層の経済的な不安定さ、出会いの機会の減少、仕事と子育ての両立の難しさ、家事や育児の負担が依然と女性に偏っている事、コロナ禍での出産控えなど、結婚、子育てを希望していても、これらの実現を拒む様々な要因が立ちはだかっています。

■日本の総人口／生産年齢人口(15～64歳)／高齢者人口の推計

	2022年11月時点	2025年推計	2040年推計
総人口	1億2,485万人	1億2,254万人	1億1,092万人
15～64歳 生産年齢人口 割合	7,412万人 (59.4%)	7,170万人 (58.5%)	5,978万人 (53.9%)
65歳以上の人口 割合	3,625万人 (29.0%)	3,677万人 (30.0%)	3,921万人 (35.3%)
75歳以上の人口 割合	1,946万人 (15.6%)	2,180万人 (17.8%)	2,239万人 (20.2%)

高齢化についても現在の日本は高齢者人口増加の過渡期にすぎません。WHOの定義によると65歳以上の人口が総人口の21%を超える社会について「超高齢化社会」とされており、現在の高齢化率は約29%ですので日本はすでに超高齢化社会なのですが、2040年になると65歳以上の人口が35.3%となり、高齢者数のピークを迎え未知の領域に突入します。人口減少について、2022年の出生数は79万9728人で統計を取り始めた1899年以降初めて80万人を下回りました。また2022年の死者数については過去最多の158万2033人となり、死者数-出生数=78万2305人と「自然減」についても過去最大となり、日本の総人口減少に歯止めがかからず、このペースで進行すると2050年には日本の総人口が1億人を割り込み9515万人にまで減少すると予測されています。

このように少子高齢化・人口減少社会は、単なる人口規模の縮小だけではなく、少子高齢化による生産年齢人口(15～64歳)の減少という「年齢構成のアンバランス」という側面をあわせ持っており、生産年齢人口の減少は地域活動を支える担い手の減少だけでなく、「社会保険」「社会福祉」「公的扶助」「保健医療・公衆衛生」などの社会保障分野における負担などに大きく影響すると考えられます。現時点でも既に社会保障費の不足が懸念されている中、このまま少子高齢化が進むと、近い将来には社会保障制度の持続自体が危ぶまれてきます。

子供を生み育てやすい環境の整備と、いつまでも高齢者が元気で頂ける取り組みが急務です。そのためにも、子育て世代ニーズに合った施策を進め、子どもを持ち家庭を築こうとする方や、現在子供を育てている方へ経済的負担の軽減をはじめ最大の支援を目指します。また、介護が必要にならない認知症の予防など、病気になってから治療するのではなく、治療から予防に視点を置いた健康寿命の延伸を目指します。限られた財源のなかで少子高齢化対策は最優先課題です。前例にとらわれることなく、また他区などと歩調を合わせる配慮はせず、思い切った施策を行い「選ばれる練馬区」を目指します。

## Message メッセージ

### 新型コロナから脱却し、 普段の暮らしを取り戻す。

2期8年間の任期がまもなく終わりを告げようとしております。振り返ると2020年1月にはじめて新型コロナウイルスの感染者が発生して以降、今日まで新型コロナ対策に追われる日々でした。区民の生命健康を守り、区内事業者の方々に支援するため2020年から2023年の3年間で計18回もの補正予算を編成するなど、過去に誰も経験のない議会での対応や多くの課題などに直面してきました。

特に緊急事態宣言発令中の新型コロナのピーク時には、区民の方から父がコロナに罹患し入院できる病院がなくて困っているとの声を頂くと、我々議員ではどうすることもできず、長時間にわたる救急隊の懸命な現場での対処も届かず、お亡くなりになるという辛い状況を目の当たりにしました。その新型コロナウイルス感染症も現在では感染者の減少が続いており、3月にマスク着用が緩和され、5月には感染症法の分類を2類相当から5類に引き下げをすることが決定しています。

ここを機会に、コロナ前にあった平和な日常をいかに早く取り戻すことができるか、私たちがこれから問われるところであると考えております。そのためにも、区民の皆様方の生活を守り、区内事業者の方々への支援など必要となる必要の支援が行き渡る取り組みを進めてまいります。

また、新型コロナウイルス感染症を教訓として、保健所体制の在り方、健康危機管理業務を進めるために極めて重要な公衆衛生医師や保健士の確保など、将来再びこのような感染症によるパンデミックが発生しても区民の生命健康を守る事が出来る取り組みを今後進めていく事をお約束いたします。



練馬区議会議員 無所属2期  
**井上 勇一郎**  
会派幹事長 / 都市整備委員会副委員長

**会派役職** 幹事長  
**所属委員会** 都市整備委員会 副委員長  
総合・災害対策等特別委員会委員  
議会運営委員会委員

**その他**  
順天堂大学付属練馬病院運営連絡協議会  
消防団運営委員会 練馬消防団 副団長  
青少年育成第三地区委員会 顧問  
防衛省自衛官募集相談員

2期計8年間  
日本各地の災害現場に出向き、  
その目で見て経験・知識を得ることで  
区の防災対策に生かしてきました。



東日本大震災



福島第一原子力発電所事故



広島市土砂災害



熊本地震



糸魚川市大規模火災



九州北部豪雨



大阪府北部地震

お問い合わせ **井上 勇一郎 事務所** 井上 勇一郎 | <https://inoue-nerima.com>

〒176-0022 東京都練馬区向山3-1-32 [TEL]03-3926-7146 [FAX]03-5848-2822 討論資料 [編集発行] 練馬会議 [頒布責任者] 柴 伸哉

